

「熊野町つなぐプロジェクト」

目的：ふるさと納税返礼品の企画

熊野町のふるさと納税返礼品は、ふるさとチョイス、さとふる等のWEBサイトをメインに出品しているが、売上の1位から30位までをほぼ「熊野筆」が独占している状況です。地域には他にもたくさんの魅力的な商品があるにも関わらず、生産量と情報発信が課題で熊野筆以外の収益化は難しい現状があります。こうした課題を踏まえ、今年度の熊野町つなぐプロジェクトでは、熊野町で130年続く酒蔵である「株式会社馬上酒造」と連携し、熊野町ふるさと納税返礼品の熊野筆以外の魅力をつくることを目的に、地域内外の若い人向けに、熊野町のお酒をPRをするデザインに取り組みました。

学生メンバー：

- ・芸術学部1年 浜田望鈴
- ・芸術学部1年 長友まひろ
- ・芸術学部1年 福本あおい

地域メンバー

- ・熊野町総務部産業観光課・主査 荒谷 大祐
- ・株式会社 人事部 取締役 事業本部長 木暮 良徳
- ・B-DASH Hiroshima 山岡 悠之介
- ・県立広島大学2年生 (HITひろしま観光大使) 川岡 誠翔

プロジェクトの成果：株式会社馬上酒造の日本酒デザインラベルの制作・販売

福本あおい 商品名「くまのおやこ」



コンセプト
馬上さんのお酒への愛を伝える
「熊野は色んな人に愛してもらおう」

馬上酒造さんでお酒を開いた時、特に「熊野」で育ったものには「熊野」の要素が詰まっていた。また、熊野を愛したことで、地域の人々の繋がりを愛する気持ちも生まれました。

「くまのおやこ」というタイトルは、日本酒に付ける名前として新しいものがありつつ、酒蔵から人々の繋がりを馬上酒造さんに紹介する「ふるさと納税返礼品」の役割にも、結びつきやすいデザインで考えました。

「おやこ」というワードを使った時、熊野をのびのびと表現したいので、熊野を中心に、日本酒に対する親しみやすさを伝えることが出来ました。また、愛のこもったポップなデザインにまとめる事が出来ると思います。

瓶の上に使うラベルも、瓶のデザインに合わせ、手に握った時の感触も表現したいので、熊野の熊のデザインを取り入れています。

熊野町つなぐプロジェクト、広島市立大学、広島県立広島デザイン・情報専門学校

大号令(?)のデザイン案



お酒の制作過程での変化を、簡単な図形におおきく表現したロゴマーク
五の雫貫と雫貫のカラーをリンクさせている
雫貫の雫貫はお酒が入っている雫貫の色

芸術学部デザイン工芸学科 1年 長友 真優

ポストカードセット



ももこの雫貫がすごく好きだった雫貫をいかにしてか表現したい。
ももこの雫貫は雫貫の雫貫をいかにしてか表現したい。
雫貫は雫貫の雫貫をいかにしてか表現したい。

芸術学部デザイン工芸学科1年 浜田望鈴
[tsunagu]

「つなぐ」は元々、広島市立大学の地域共創プロジェクトで地域メンバーと一緒に考えた「熊野町つなぐプロジェクト」の名前から取っていることありますが、馬上酒造の村上さんが、奈良時代の醸造方法を復活させたり、馬上さんの昔ながらの機械や道具をつかった醸造方法を継承している姿を見て、製法を「つなぐ、かつの食文化を「つなぐ」、道具や歴史を「つなぐ」、そしてお酒を通じて人と人を「つなぐ」といった思いが込められている。

「つなぐ」を漢字にして、タイグラフィックのようにデザインした。
平和の象徴の鳩を伝書鳩のようにみたくした



人とお酒をつなぐ

